

元気な人紹介



「RUN RUNプロジェクトで魅力ある世羅台地をアピール」

世羅町観光協会 部長 西原 淳さん

昨年、商工会事業を活用し、せら高原RUN RUNプロジェクトを始めた。最初に取組んだのが青山学院大学陸上部の合宿です。

今年はずっと満足頂くよう先進地のスキー場泊施設を視察研修しました。

世羅はハードはないが世羅高駅伝の実績にもとづくブランドがある。何より世羅高原、世羅台地がある。大地を走る爽快さは魅力的です。

世羅観光は、春の花、秋の美味しい果物、農家さんの安全で新鮮な野菜など、都会の人には魅力的な観光資源に溢れているが、11月以降から春にかけては閑散期。合宿誘致ができれば活性化につながります。

観光で町が元気になるには、町民の支援と協力が不可欠、内側に対する宣伝も必要です。

観光客の道聞きなど10の間が2に減少すれば相当な効果があったといえます。観光協会も看板の整理など効果が上がるよう努めています。

さて、今年2年目の合宿を終えた青山学院大学の皆さんは、町民の皆さんの応援に感動。沿道の拍手、車がスピードを緩めて道を譲る、止まって声援を送るなど、皆さんの声援が力になった。皆さんにお礼がしたい、その分頑張ろうという気になる。本

当にきてよかったと話されました。

この地は、世羅高の駅伝を地域の皆さんが精神的・経済的に支え大切にしてきた歴史があり今日があります。その歴史を継承し引っ張って行くのがRUN RUNプロジェクトの任務と想っています。

できれば、複数の競技が開催できる陸上競技場があればと話される。世羅で走れば記録が伸びる。自己新記録が出たと輪が広がる。吹奏楽、チアガール、応援も多く来ると、今ある閉校施設の活用もできます。

一つのプロジェクトが成功すれば、他の事業にも広がります。合宿が、地域とつながり、もっと誘致出来れば町が明るく活性化すると話されまし

小さな心の触れ合いが地域を支え人を呼ぶ。新しい町づくりの原動力になればと思います。

福田義人



合宿中の青山学院大学 陸上部

表紙紹介

どんんぱれー

9月2日せらにシ
タウンセンター特設
会場で開催された第
12回どんんぱれー
INせらのシーンで

す。県内はもとより遠くは関西などから50チームが選ばれエントリー。その中の地元病院のチームが水路で泥を落としていた。その笑顔にレズを向けた。

編集後記

新町世羅町が誕生してまる8年が経とうとしている。振り返ると合併当初、第二の夕張ともいわれ先が見えない財政状況であった。

叱咤激励をうけメゲルこともあったが議員みな充実感を感じていると思う。

危機的状況を脱した今、これからは守りの政策から、攻めの政策へと転換するであろう。

財政健全化をめざし町民、執行部、議員が一丸となって日々頑張ってきた。ふと、振り返るとある種の仲間意識も生まれたように感じる。

「町のために、住民のために」と思う気持ちこそがそうさせたのか。

報告会を開催すると住民の皆さんから

議員として、執行権はないが提案はできる。10年という節目を間近に控え世羅町がどう進路をとり進もうとするのかしっかりと見据えてゆきたい。今後も、より住みよい世羅町にするため改選時期ではあるが、一層のご指導ご鞭撻をお願いいたします。

松本秀治

議会を傍聴してみませんか 次回の定例会は12月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

委員長／福田 義人
副委員長／松本 秀治
委員／西田美喜男・岡田 武士
福田 豪・仙光 保喜
(今期、お世話になりました。)

議会広報広聴
調査特別委員会

議員の寄附は罰則をもって禁止されています。議員に寄附を求めることも禁止されています。年賀状など（答礼のための自筆によるものを除く）を出すことも禁止されています。



この広報は、環境にやさしい植物性大豆油インキで印刷しています。